

授業科目名・形態	助産診断・技術学Ⅲ	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	山平良子・重藤龍比古	開講期	4年前期	単位数	1

【授業の主題】

分娩期は人生のうちでも目に見える身体的・心理的・社会的・発達の变化を伴う時期であり、正常を逸すると母児の生命に直接的に大きな影響を及ぼす。この時期に助産師の行う診断とケアは、変化を正確に把握し適時に対応することが求められ、かつ現在および今後の健康状態の変化や経過を正確に予測した助産診断を行うことが極めて重要である。

本科目では、分娩期における助産診断の理論と技術を学び、助産過程の展開ができるようになる。また、分娩期におけるハイリスク・異常分娩、救急処置などの基礎的知識と技術について学ぶ。

【到達目標】

1. 分娩進行に伴う母子の健康状態に応じた助産診断の基礎的な知識を習得と助産過程の展開ができる。
2. 分娩期におけるハイリスクおよび異常分娩、産科手術、産科救急について理解できる。
3. 正常からの逸脱予測と予防のアセスメントを学ぶ。

【授業計画・内容】

- 第1回 分娩期の助産診断と診断類型 (山平)
- 第2回 事例展開①初産婦の分娩期 (山平)
- 第3回 事例展開②経産婦の分娩期 (山平)
- 第4回 事例展開③正常から逸脱した産婦のケア (山平)
- 第5回 事例展開④新生児のアセスメントとケア (山平)
- 第6回 事例展開⑤ハイリスク・異常分娩のケア (山平)
- 第7回 ハイリスク・異常分娩 (重藤)
- 第8回 産科手術・産科的医療処置 (重藤)

【授業準備】

事前に基礎助産学、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱでの学習内容、および教科書・資料・参考文献を復習しておくこと。各講義・演習で学習した知識・技術を活用できるように常に予習して臨むこと。

【主な関連する科目】

基礎助産学、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ

【教科書等】

助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期. 医学書院
 助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ[3]分娩期・産褥期. 医学書院

【参考文献】

井上裕美他監修：病気がみえる産科 MEDIC MEDIA
 日本助産診断・実践研究会：実践 マタニティ診断第4版 医学書院
 北川真理子、内山和美編：今日の助産改訂第3版 南江堂
 武谷雄二他監修：プリンシプル産婦人科学2 産科編第3版 MEDICAL VIEW
 日本産婦人科学会/日本産婦人科医会編集・監修：産婦人科診療ガイドライン 産科編 2017 日本産婦人科学会
 その他は授業の中で適宜提示する。

【成績評価方法】

筆記試験 80%、授業への取組み姿勢・出席状況 20%とし総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

分娩介助技術習得の以前の必要な知識です。これまで以上に予習・復習が重要になりますし、教科書や参考文献を活用した積極的な自己学習の積み重ねが大切です。各学習の機会を大切にし、お互いに効果的な学習ができるようにしていきましょう。